

2 銀天街商店街周辺地区の特性と滞留空間形成の視点

■ 銀天街商店街周辺地区の特性

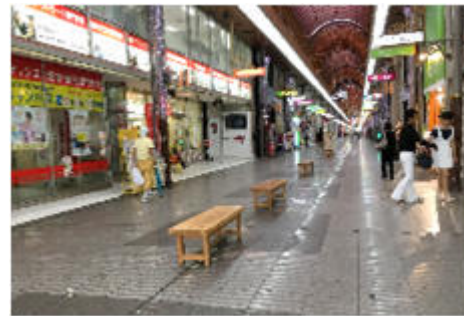
【現状と課題】

昨年度、当地区を対象として行われた調査結果等も踏まえると、魅力的な空間形成という観点で銀天街周辺では、以下のような現状、課題があるものと考えられる。

○ 滞留行動を促す環境に乏しい

・賑わいの創出には、滞留行動を増やすことが不可欠だが、現状で、銀天街やその周辺においては、社会実験中の「みんなのひろば」を除いて滞留する行動がほとんど見られない。

⇒受け皿となる空間がないこと、空間がある場合も座る場所がないなど、環境が整っていないことにその原因があると考えられる。



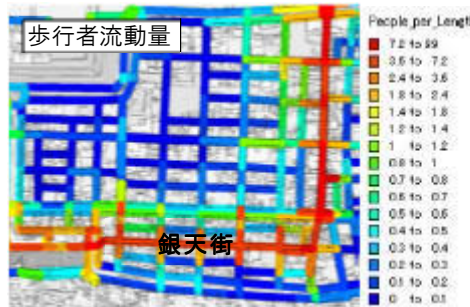
○ 地区全体での回遊性に乏しい

・銀天街北側には、独自の魅力を備えた路地空間等があるが、銀天街に歩行者の流れが集中し、回遊する行動が見られない。

・人の流れを誘導し、地区全体での回遊性を高めていくことが必要。

⇒現状の改善には、段階的に施策を展開していく必要がある。

⇒まず、人通りの多い銀天街での実証実験を通じて空間の魅力向上を体験できる機会をつくり、当地区に対する市民のイメージ・親しみやすさの向上と、こうした取組みに地域が協力していく機運を高めていくことが重要。

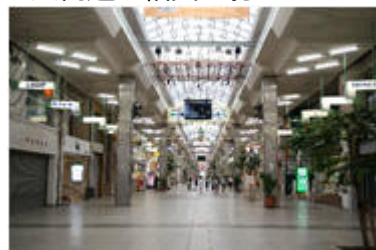


出典：「街路ネットワーク解析を含む賑わい歩行ルート診断の例題作成業務 松山市中心市街地の診断事例」H26.3 国交省国土技術政策総合研究所 に加筆

【大街道と銀天街の違い】

○ 道路幅員がせまく、空間的な余地が少ない

大街道の幅員：約 15m



約半分

銀天街の幅員：約 8m



⇒道路空間を日常的に活用できる余地は、大街道に比べると限定されている

○ 個店の存在感が大きい

・大街道：チェーン店やパチンコ店、居酒屋などが多く進出する傾向
・銀天街：老舗等、松山市オリジナルの個店が多数残っており、服飾や雑貨等の物販店舗も多く立地



■ 滞留空間形成の視点

銀天街商店街周辺におけるまちづくりの課題に対応していくことを念頭に、当地区の特性を踏まえて、下記のような視点を重要と考え、それに基づいた滞留空間形成の実証実験を検討・企画することとする。

【視点】

- 公と民との連携・協力によって限られた空間の中で工夫しながら上手にパブリックの場を創出していくこと (→ 空間)
- ハード環境だけに依存せず、ソフトの工夫によって都市空間の魅力向上を図ること (→ 仕組み)

【銀天街における実証実験検討の方向性】

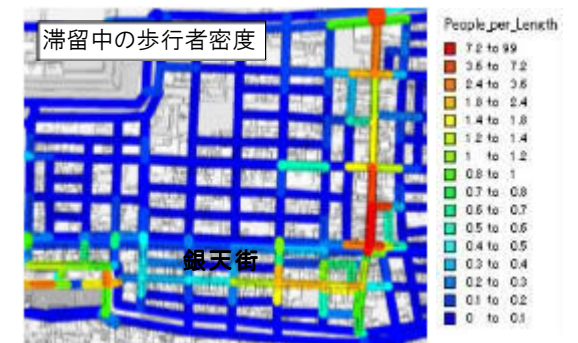
《 空間 》

① 限られた空間の中で、公民の連携によって工夫しながら市民の日常的な居場所を創出

・多くの歩行者がいるものの、歩行者に対して滞留行動は少なく、通過交通が多い。

(歩行者の密度に対して滞留歩行者密度が少ない
→滞留者が少なく、通行者が多い)

⇒銀天街を通行している人が、日常生活の中で、自然なかたちで、より多くの時間を過ごすようになることが重要で、空間デザインの工夫により、快適で居心地の良い環境をつくっていく必要がある。



POINT

公共と民間とが連携した滞留空間づくりをデザインするなど、空間的な制約の大きな銀天街で効果を発揮できるような方法を検討

《 仕組み 》

② 市民の居場所を豊かにするコンテンツを市民が参加しながら育てるきっかけづくり

・市民が銀天街のことを自らの居場所と感じてくれるようになるためには、限られた空間においてハード面での環境を整えるだけでは十分ではない

⇒市民がまちとつながりをもつこと、そしてその中で感じる暮らしの豊かさを自らの手で高めていけるような環境づくりが必要

POINT

銀天街の特徴を生かしながら、自分の居場所を豊かにしてくれるコンテンツを、市民が参加しながら育てていくきっかけとして実証実験を活用